



正の有理数  $x$  を既約分数で表したとき、その分母の平方を  $f(x)$  とする（自然数  $n$  に対しては  $f(x)=1$  とする）。

(1) 相異なる正の有理数  $x, y$  に対して、次の不等式が成り立つことを証明せよ。

$$\frac{2}{|x-y|} \leq f(x)+f(y)$$

(2) 自然数  $n$  に対して  $x_n = \frac{2}{3n+4}$  とするとき、次の極限值を求めよ。

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \{f(x_n)+f(x_{n+1})\} |x_n - x_{n+1}|$$



(1) 相異なる正の有理数  $x, y$  を既約分数で表して  $x = \frac{n_1}{m_1}, y = \frac{n_2}{m_2}$

( $m_1, m_2, n_1, n_2$  は正の整数で、 $\frac{n_1}{m_1} \neq \frac{n_2}{m_2}$  を満たす) とおく。

$$\begin{aligned} \text{このとき、} f(x)+f(y)-\frac{2}{|x-y|} &= m_1^2+m_2^2-\frac{2}{\left|\frac{n_1}{m_1}-\frac{n_2}{m_2}\right|} \\ &= m_1^2+m_2^2-\frac{2m_1m_2}{|m_2n_1-m_1n_2|} \\ &\leq m_1^2+m_2^2-2m_1m_2 \quad (\because |m_2n_1-m_1n_2| \geq 1) \\ &= (m_1-m_2)^2 \geq 0 \end{aligned}$$

等号成立は  $|m_2n_1-m_1n_2|=1$  かつ  $m_1=m_2$  のとき。

よって、 $\frac{2}{|x-y|} \leq f(x)+f(y)$  が成り立つ。

(2)  $x_n = \frac{2}{3n+4}$  は  $n$  が偶数のときには分母が約分できるので、 $n$  の偶奇で場合分けする。

(i)  $n=2k$  ( $k=1, 2, \dots$ ) のとき

$$\begin{aligned} x_n &= \frac{2}{3 \cdot 2k+4} = \frac{1}{3k+2} \quad \text{より} \\ x_{n+1} &= \frac{2}{3(n+1)+4} = \frac{2}{3n+7} = \frac{2}{3 \cdot 2k+7} = \frac{2}{6k+7} \end{aligned}$$

よって

$$\begin{aligned}\lim_{n \rightarrow \infty} \{f(x_n) + f(x_{n+1})\} |x_n - x_{n+1}| &= \lim_{n \rightarrow \infty} \{(3k+2)^2 + (6k+7)^2\} \left| \frac{1}{3k+2} - \frac{2}{6k+7} \right| \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \{45k^2 + 96k + 53\} \cdot \frac{3}{18k^2 + 33k + 14} \\ &= 3 \cdot \frac{45}{18} \\ &= \frac{15}{2}\end{aligned}$$

(ii)  $n = 2k - 1$  ( $k = 1, 2, \dots$ ) のとき

$$(i) \text{と同様にして } \lim_{n \rightarrow \infty} \{f(x_n) + f(x_{n+1})\} |x_n - x_{n+1}| = \frac{15}{2}$$

となる。

$$\text{よって, } \lim_{n \rightarrow \infty} \{f(x_n) + f(x_{n+1})\} |x_n - x_{n+1}| = \frac{15}{2}$$